

大正五年十一月十日前後ニ於ケル大ナル地ノ脈動

委員 理學博士 大森 房 吉

東京微動計觀測ニヨルニ大正五年十一月七日ヨリ十二日ニ互
 レル地ノ脈動ハ頗ル顯著ニシテ東京ノ地動ハ十一日ニ至リテ
 最盛トナリ、實動ハ約〇・四「ミリメートル」ニ及ビテ數年來始
 メテノ大サニ達セリ。脈動發展ノ順次ハ左ノ如シ。

日時(大正五年十一月)	脈動	脈動の大き
七日 午前二時四分	始めて發生す	〇・〇一二
八日 朝ヨリ		〇・〇三三
九日	次第に増大す	〇・〇五四
十日		〇・一二
十一日 午前六時五十二分	稍増大す	〇・一四
十一日 午前十一時卅一分	同上	〇・二二
同 午後一時九分		〇・三一
同 乃 至	此ノ間脈動最モ顯著ナリ	(最大動) 〇・三六
同 午後五時四十分		〇・二七
十二日 午前一時五分	此ノ頃ヨリ急ニ減少ス	〇・〇八

(前表下段に記せるは南北方向ノ脈動ノミニ就キテ例トシテ示セリ)。

此ノ大ナル脈動ヲ生起セル低氣壓ハ十一月六日正午頃ニ沖繩
 島南東ニ存シ次第ニ北東方向ニ進行セルモノナルガ其ノ中心

位置並ニ中心點ニ於ケル氣壓(但シ天氣圖ニヨル)ハ左ノ如ク
 ナリキ。

日	時刻	低氣壓中心の所在點	東京ヨリ低氣壓中心ニ至る距離點の氣壓
六日	正午	沖繩島ノ南東	一六〇〇
同日	午後六時	同	一七〇〇
七日	午前六時	沖繩島ノ南微西	一九〇〇
同日	正午	同	一九〇〇
同日	午後六時	沖繩島ノ南	一八〇〇
八日	午前六時	同	一八〇〇
同日	正午	沖繩島ノ南東	一六〇〇
同日	午後六時	同	一五〇〇
九日	午前六時	同	一五〇〇
同日	正午	同	一五〇〇
同日	午後六時	沖繩島ノ東	一二五〇
十日	午前六時	九州南端ノ南東	一一〇〇
同日	正午	同	一〇〇〇
同日	午後六時	紀伊南端ヨリ南	八〇〇
十一日	午前六時	(伊豆半島ノ南端ヨリ南微東)	四〇〇
同日	正午	安房南端ヨリ南東	三三〇
同日	午後六時	銚子ノ南東	四四〇
十二日	午前六時	根室ノ東	七五六

此ノ表ニヨルニ低氣壓中心點ガ最モ東京ニ接近セルハ十一日
 午前六時頃ヨリ同日午後六時前後迄ニシテ氣壓ノ最低示度ハ
 七百三十四「ミリメートル」ニ達セリ、其レ以前ノ低氣壓中心

點ノ氣壓ハ天氣圖ニヨレバ七百四十六「ミリメートル」ニ止マリシモ地ノ脈動ガ甚シカリシ事實ヨリ推セバ、本州南東部通過中ニ於ケル中心所在地ニテハ七日ヨリ十日ノ間ニテモ既ニ甚シク氣壓ノ低下アリテ前記七百四十六「ミリメートル」ヨリハ一層少ナカリシヤモ知ルベカラザルナリ、要スルニ臺灣琉球附近ノ太平洋上ニ於テ大ナル低氣壓ヲ發スレバ既ニ東京ニ於テ多少ノ脈動ヲ現出スルヲ常トス、而シテ今回ノ如ク脈動ノ著ルシカリシ場合ハ甚ダ稀ナル例ニ屬シ數年間ニ漸ク一二回ヲ算フルニ過ギズ。時恰モ 聖上ガ九州大演習地へ行幸ノ御途次ニアラセラレ十一月八日神戸ヨリ巡洋戰艦榛名ニ乘御 九日夕刻ヨリ十日早曉迄大隅國志布志灣ニ御假泊ノ上、十日午後五時佐世保ニ御安着アラセラレタルガ御渡航中如何ニ海上風波荒カリシカハ微動計ガ記錄セル地ノ脈動が大ナリシヲ以テ見ルモ推知スルヲ得ベシ、聖上ガ斯カル暴風雨ヲモ意トシ給ハザル叡慮ノ畏キ誠ニ恐多キ御事ニシテ臣民ガ恐懼措ク能ハザル所ナリ。